



沖縄キリスト教短期大学報

第35号

沖縄キリスト教短期大学
沖縄県西原町字翁長777
電話 (098) 946-1240
編集 発行 事務局企画課



第5代学長就任式（1991年10月9日）

■ 学長就任式

■ 1992年度入試状況

前里光信さん

ひと



として数々の重責をこなしている。西原町は人口急増地域にあたり、小・中学校の新設も度々で分離校の建設促進、運動公園・児童公園の建設に尽力。町民の命と財産を守る立場から消防行政に積極的に参加。企業廃棄物による環境汚染や養豚・養鶏の臭公害などの問題に取り組んでいる。

「同窓会・短大・在学生に望むこと」を尋ねると次ぎの返事が返ってきた。

英語科八期卒業。沖縄大学英文科及び法学科卒、琉球大学経営学専攻卒。田崎病院勤務を経て、金秀アルミ工業株式会社勤務。QCサークル事務局担当、金秀グループTQC推進委員会事務局長。西原町議会議員。

一九六七年に卒業。以来、沖縄キリスト教短期大学同窓会の強力メンバーとして会の発展に尽くしてきた。三つの大学を出たがキリ短に一番愛着を覚えるとは、昔から口癖であり、短大の行事には真っ先に駆けつけるグループの人である。同窓会長として同窓生相互の親睦を図り、母校である本短大の発展と在学生の支援に協力を惜しまない。

現在、西原町議会議員（二期目）

外国人留学生奨学金贈呈される

六月二十一日、本学二名の外国人留学生に対し「外国人留学生特別奨学金」が贈られた。これは今

年度より設けられた奨学金で、本学に正規生として在籍する私費外国人留学生に与えられるものである。給付額は五万円で対象となつたのは、李榮寶さん（韓国）と

黄靖要さん（台湾）。また七月二十三日には、次ぎの県内二企業から「外国人留学生特別指定奨学金」（各二十万円）が

前記二人に贈呈された。

（株）丸産業 三十万円
（株）トラスト保険センター 十万円

▽採用 一九九一年十月一日付
謝花みどり（学生部）

【卒業生へのお願い】
卒業生で、学報が届かない方を「存じてしたら左記までご連絡下さい。また、どちらさまも住所・氏名・勤務先等を変更された場合は同様にご連絡下さい。

沖縄キリスト教短期大学
事務局企画課
二〇〇〇年〇月〇日 西原町翁長七七

大勢の役員、同窓会員、職員が慰労会に参加した（九月二十八日）



人事

大勢の役員、同窓会員、職員が慰労会に参加した（九月二十八日）

三期十二年に渡り短大運営に尽力された大城実学長は任期満了に伴い学長職を九月末日をもって離任。これまでの労をねぎらうため

学長就任式 原 喜美 新学長を迎える

学長就任式が一九九一年十月九日(水)午後四時三十分チャペルにおいて挙行され、大城実理事長から聖書が伝達され第五代学長に原喜美教授が就任した。

原新学長は、七月に行われた一次及び二次の学長選挙による選出を受け東京神学大学を九月で退職、就任式に臨んだ。

開学三十五年にして初めて県外から迎える学長である。なお、新学長を迎えて平良修日本基督教団沖縄教区総会議長から祝辞が述べられた。

学長の任期は四年で、一九九五年九月まで沖縄キリスト教短期大学長としての重責を担う。



左から、砂川学長(沖女短)、大田県知事、砂川学長(琉大)
原学長、大城理事長——就任祝賀会——



津田塾専門学校(現・
津田塾大学)英語英文
学専攻卒。シカゴ大
院、ミシガン州立大
院で学ぶ。専攻は教育
社会学・社会学。
哲学博士。一九一六年
生、東京都出身。

原 喜美 新学長
プロフィール

母校津田塾大学を出発点に教職生活一筋。在職期間は国際基督教大学(I.C.U.)が最も長く、二十四年間勤めた。

研究活動
『戦後女性学』の草分け的
存在で、特に、女性教育は
じめ、女性と労働、女性と
地位、家庭問題の分野に共
著・学術論文多数。
国際会議・学会などの経
験が豊富で日本研究プログ
ラム担当の客員教授として
フィリピンやインドネシア

の大学から招聘。昨年三月
フィリピン女子大学より名
譽学位(教育学博士)を受
ける。

外国语
日本の女性教育の問題を凝
視しつつも、その尺度を計
るものさしは常に世界的視
座に立つ。
英語、インドネシア語に堪
能で仏語が読める、この語
学力も先生の働きを支え広
げる強力なバックボーンな
のである。

激動する世界に生きるには

就任挨拶

学長 原 喜美

大城理事長、「ご来賓の皆様、いつも沖縄キリスト教短期大学を」後援下さる皆様、卒業生、教職員の皆様、そして若い学生の皆様！今日は、台風襲来の予報にもかかわらず、「ようこそ」この学長就任式にご来場下さいまして厚く御礼申し上げます。「十月風はこわい」と言われて居りますのに、台風二十一号は沖縄本島をそれ、幸い晴れ間も見え、秋の訪れる近い事を感じさせられます。

さてこの度私は、神の計り知れない御恵により、全く思いがけなくこの沖縄の地に導かれ、誠に光栄なこと存じます。御地の皆様の心豊かな、あたたかい歓迎を受けまして、私自身喜びに満たさ

れております。与えられました学長の重責を、神様のお助けと、皆様方お一人ひとりのご協力、ご支援により果たさせていただき大切に願って居ります。

「ごく最近、私は前任校(東京神学大学)の学生達十四名で、隣国フィリピンを訪問し、大変感動的な経験をして参りました。その内二つのことをお話しして、就任のご挨拶とさせていただきます。

この体験はまるで、激動の世紀末を象徴しているように思えました。いつでも生と死は紙一重で隣り合わせであり、生きる為には、神の御助けを求めつつあらゆる力をふり絞って戦わなければならぬと思いません。その力はどこから来るのでしょうか？それは人生におけるあらゆる学習経験により獲得されるものです。そこで集中的に行なうことは、決してただ形式

的に単位を取得する為でなく、生きる力を増し加える事につながりいかなければならないと思います。

高度に発展した社会、次の瞬間に何が起こるか予測できない状況の中で生存するには、難問を解決する能力、新しい方法を発見し、開発する能力などが必要とされます。しかしそれは一朝一夕に身につくものではありません。私自身、大して得意な技能はありませんが、水泳は幼い頃から海に放り出されて育った為、いざという時にも、何の恐れもなく泳ぐことが出来て助かりました。あの沖縄水産高校生が野球で発揮されたパワー、本学の空手の選手の涙ぐましい練習ぶりなど何事にも全力を尽して日々一つひとつ学びの中で実践することにより、やがては「自己学習」を達成することができます。それは生きている限り継続するものであり、生きることは学習することでもあります。

第二の経験は、フィリピンのピナッポ火山の噴火による被災地を

十月一日フィリピン南部、ネグロス・オリエンタルの首都ドマゲティにあるシリマン大学を訪ねました。これはフィリピンの抱える「貧困」の問題に私たちがどのようにかかわることが出来るかを学ぶ為でした。対岸の漁村を見学す

る為、全員バンカに分乗しました。六隻のバンカはミンダナオに続く海を気持ちよく走って居りました。ところが突然、波が横なぐりにバンカにぶつかり、六隻のうち四隻が、あっという間に転覆して私たちは、大海に放り出されました。私も首にパスポート、航空券、お金などを入れたバッグを吊したまま気がついた時は、バンカを目がけて大海を懸命にまるで魚のようにスイスイと泳いでいました。後で学生達と共に一生に一度しかできないこのような冒險をして、神様の御助けにより無事であったことを喜び合いました。

この度私は、神の計り知れ

ない御恵により、全く思いがけなくこの沖縄の地に導かれ、誠に光

栄なこと存じます。御地の皆様

の心豊かな、あたたかい歓迎を

受けまして、私自身喜びに満たさ

訪問したこと)です。長崎の雲仙。

普賢岳の災害は、皆様もよく御存じで、避難している方々の御苦労には計り知れないものがあります。このピナッボ火山は、六百年間休火山であったのが、今年の六月大噴火を始め、その噴火力は雲仙・普賢岳の一千万倍、一万倍もあり、既に五十万人に上の被災者を出しています。

フィリピンは、この一年間、データー、大型台風、洪水、大地震、湾岸戦争(湾岸地域に六十万人)、七十万人の働き人を送っている)などの天災、人災に痛めつけられて、我が家と持ち物すべてを土砂流に流れされ、生命からがら、いつまで続くか分らないテント生活を強いられている人々をパンパンガ州に訪ねることが出来ました。信仰深いフィリピンの人々は、蚊による伝染病に悩まされ、汚染された水、乳幼児や老人たちの衰弱、病気、子供たちは教育を受ける権利も奪われ、一日一食に甘んじて悪条件の中で辛うじて生命を維持しています。

		1992年度入学試験結果			
		応募者数	受験者数	合格者数	倍率
英語科 (定員250)	推薦入試	224	224	102	2.20
	一般入試	413	405	225	1.80
	計	637	629	327	1.92
保育科 (定員100)	推薦入試	91	91	47	1.94
	一般入試	155	152	80	1.90
	計	246	243	127	1.91
合計 (定員350)	推薦入試	315	315	149	2.11
	一般入試	568	557	305	1.83
	計	883	872	454	1.92

倍率: 小数点3位を4捨5入

志願状況を昨年比で見ると、推薦入試は両学科で五人減の三百十

十一人減、保育科で五人の微増、

合計四十六人減の五百六十

八人となつた。

今回から英語科推薦入試

(学校長推薦) 志願者の英

語評定平均値を四・〇にアッ

プした。また、昨年一割だった推薦入学の枠を拡げ三割

とした。

今年度入試の志願動向に

は、県内外を問わず女子の

高学歴指向の進行が見られ、

難易度の高い短大にその傾

向は顕著であるということ

が指摘されている。本短大

でもこの状況を真摯に受け止め、今後の対応策を図ることともに教育の質的充実を

さ、「命どう宝」の精神から私も深く学び、台風とも共存する知恵も身につけていきたいと願っています。

「静聴ありがとうございました。」

さ、「命どう宝」の精神から私も深く学び、台風とも共存する知恵も身につけていきたいと願っています。

クリスマス礼拝・祝会報告

宗教部長 金城重明

この国際化時代にあって、沖縄はアジアの要、広く世界へと開かれた南の玄関口であり、日本と世界を結ぶ架け橋の役割を担っています。その苦難の歴史を通して示された人々のたゆまぬ生命力の強

さ、「命どう宝」の精神から私も深く学び、台風とも共存する知恵も身につけていきたいと願っています。

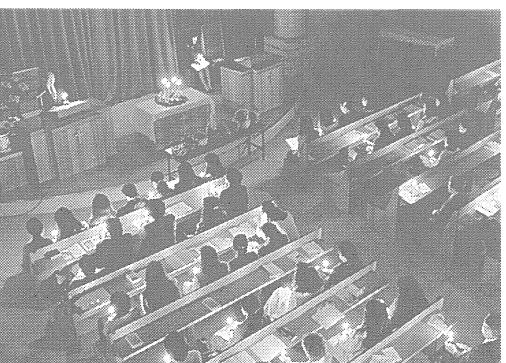
一九九一年四月に噴火、六月に大爆発を起こしたフィリピン・ピナッボ火山・被害ニコースは全世界に大きな衝撃を与えたことは記憶に新しい。

フィリピンの被災地の人々を援助するために東京神学大学、短期大学・原喜美学長名でフィリピン・ピナッボ噴火被災者救援金の募金活動が展開されました。呼び掛けに呼応して宗教部では、学生及び教職員に献金を呼び掛け協力を求めたところ十一万七千八百十二円が掛けられた。

また、原学長のとともに、学生個人三万円余や学生会からキリスト教のバザーの売上金の一部十四万五千円余が届けられた。

(宗教部)

イエス・キリストの「誕生を賛美し感謝を捧げるクリスマス礼拝が十二月二十一日チャペルにおいて行われました。寄せられたクリスマス献金は、十四万五千円余でアジア人権基金(フィリピン・レイテ島台風被災者)、台湾先住民族の教育、盲人伝道(青木牧師)、信愛荘のために捧げられました。



求めて努力を重ねる必要がある。で二百五十人となる。定員の増加にあたり英語科ではコースの名称を変更し、専任教員の新規採用や独自性のあるカリキュラムを組むなど、コースの特色を強化する。新しいコース名はインター・ナル・コミュニケーション・コースとビジネス・コミュニケーション・コースで入学後どのコースでも自由に選択できる。

卒業式 準学士称号授与

三月十四日前十時体育館において一九九一年度(第三十四回)卒業式が挙行される。卒業生二百七十七人(英一八四名 保九三名)が社会へ或は更に進学へと巣立つことになる。今回から、学校教育法第六十九条の二第七項改正により短期大学を卒業したものに准学士称号が与えられる。

なお、準学士の称号は既卒者にも適用され卒業証明書発行時に記載されることになる。

◎本学卒業者で准学士の称号取得証明書を「入用の方は教務部まで、ご連絡下さい。

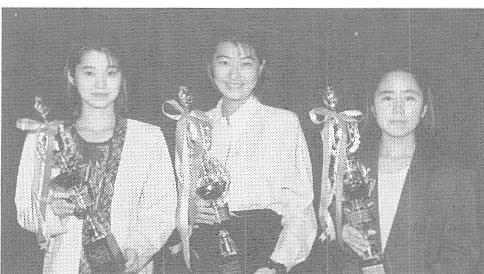
高校生英語弁論大会

学内英語弁論大会

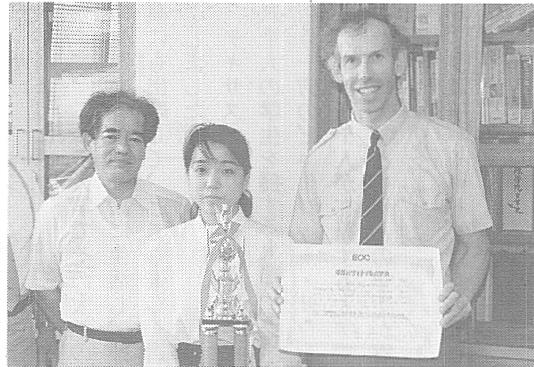


高校生英語弁論大会出場者の皆さん

英語 弁論大会



左から古堅三千代（2位） 岸本厚子（1位）
伊佐かおり（3位）



ホノルル市長杯 第十一回「全国青少年英語弁論大会」（六月二十三日大阪市で開催）に南九州代表として出場した英語科一年次・龜甲富子（かめいこ・あつこ）さんが見事第一位を獲得した。メインテーマは「One World, One Government」（世界連邦政府樹立を尊ぶ）。龜甲さんは「One World at Peace Through One Government」（世界に平和を）の演題で熱弁を奮った。

今大会大学の部出場者は十一名。一位は慶應義塾大学、三位に西南女子学院短大がそれぞれ健闘した。

教育実習を終えて

伊志嶺英語科長 龜甲さん
グレイ英語科助教授

「毎日が緊張のなかにも感動と発見の日々でした」とは、ある実習生の感想である。僅か一週間という短期間の実習ではあるが、若者たちの新鮮な感覚で捉えた教育の多様な側面に関する意見には、教育の原点に触れる傾聴に値する

本短大主催・琉球放送共催による第三回高校生英語弁論大会が十一月十四日本短大チャペルで開かれた。宮古高校、伊良部高校はじめ県内十七校の代表が出場。テーマは自由で、平和問題、環境問題、社会生活、高校生の問題、その他身近な話題などを英語で発表した。審査の結果、「No War Any More」（戦争なんてもう一度）の演題で発表した球陽高校一年のジュニファー・ハブリックさんが優勝した。一位は大原由美さん（那覇西高三年）「The World Peace Which I Dream」（世界平和を夢見る）、二位は新垣あさみ（わが高三年）「Kijimuna's Island」（キジムナーの生き島）が選ばれた。

今大会ゲスト・スピーカーは米国総領事リチャード・A・クリスティンソン氏。「The Value Of English In The Modern World」（現代における英語の価値）の題でスピーチを行った。

1位 伊佐かおり（英-I）

「It Time To Act」

2位 古堅三千代（英-II）

「Getting Dreams」

セカル・ベヌチは龜甲富子（英-II）さん。

意見も少なからずあり、実習を体験した学生たちが一回り成長したように思えて頗もしくなった。

昨今の国際化時代は教育現場にその影響を及ぼし、多くの中学校でAET（Assistant English Teacher）と呼ばれる英語を母國語とする外国人の先生の姿が見られた。実習生たちのなかには、そのAETと臆する事なく英語教育について論じあっている光景も見られた。しかし私見ではあるが、AETの能力と指導技術が現場で十分に發揮されているとはいえず、効果的な活用は今後の課題のように思えた。

実習事前指導の一環である教育講話は、今年度は首里中学校長の浦崎修子先生を講師にお願いした。「教師とは」「授業の質的向上」「教師の質的向上」という三つの視点から、教師という職業のあるべき姿、教科指導や生活指導について教師が心すべき事などを具体的な例を挙げながら分かり易く講義して下さった。学生たちにとっては実習中、大いに参考になったことと思ふ。浦崎先生に改めて感謝申し上げたい。

教育実習は、九月に実習生の出身中学校で行われた。どの学校も運動会や文化祭等の学校行事で多忙な折りにもかかわらず実習生を快く引き受け、指導いただいた。また、教育実習が実施されるにあつては各市町村の教育委員会の理解と指導・協力があったことを特記し感謝申し上げる次第である。

（しもん がんき）

下地 玄毅

教育実習は、九月に実習生の出身中学校で行われた。どの学校も運動会や文化祭等の学校行事で多忙な折りにもかかわらず実習生を快く引き受け、指導いただいた。また、教育実習が実施されるにあつては各市町村の教育委員会の理解と指導・協力があったことを特記し感謝申し上げる次第である。

英語によるスピーチを行い、内容、表現力、発音など総合的な英語力を競い合う恒例の「学内英語弁論大会」（第十一回）が十一月八日チャペルで開かれた。今大会の優勝者は、英語科一年・岸本厚子さん。演題は「A Little Proposal For a Better Community」。田辺社長における薩摩男とのかかわり方にについて、日・米の比較を通して考える障害児福祉の問題を取り上げた。審査員の山里恵子助教授は、「英語力、内容とも年々向上している。よいスピーチをするには、新聞やテレビのニュースに関心をもつける。このような場は表現力を培うよいチャンスなのでもっと多くの学生が積極的に参加してほしい」と話していた。二位と三位は次のとおり。

1位 伊佐かおり（英-I）
「It Time To Act」
2位 古堅三千代（英-II）
「Getting Dreams」
セカル・ベヌチは龜甲富子（英-II）さん。

アメリカ・スタディ・ソアード引率して

一般教育助教授 ジョン・エド・フランシス

昨年のアメリカ・スタディ・ソアード（主催・ギのわんセミナー・ハウス、二十八日間）にキリ短から八名の学生が参加しました。

ツアーリーの目的は米国の大学生活の体験やホームステイ、米国が抱えていた問題に対する活動の見学です。私達は、カリフォルニア、テキサス、ワシントンの三つの州を訪ねました。

まず、二つの大学でその大学の学生たちと寮で一緒に生活し、授業にも出席して、とても楽しく過ごしました。

テキサス・クリスチャン大学は八千人の学生を擁する大きい大学、もう一方のピュージット・サウンド大学は三千人が在籍する大学でした。両大学とも殆どの学生が寮生活をしていていますのでキャンパス・ライフはイキイキとしたものでした。快く私達を歓迎してくれたことや、学生たちが熱心で積極的であることが印象深く残りました。

テキサス州では、様々な施設を見学することによってアメリカ社会が抱えているいろいろな問題を知りました。

失業や貧困、アルコール中毒等によりホーリースにいった人々のための収容施設では、一晩で何百人もの世話をを行う様子に驚きました。

特に、貧困家庭のための保育園の牧場や、家庭内暴力、性暴力を受けた子供のための施設では、その子供たちの成長ぶりを垣間見ました。

このようないくつかの施設の見学によって更に広い意味で、アメリカ社会と出会ったような気がします。またこういう社会福祉施設で職員やボランティアが熱心に働いている姿は非常に感銘深く、私達も困っていました。

いる人達と共に、これらの問題に取り組む必要があることを学びました。

学術研究助成金

○一九九一年度宇留麻研究助成基金による研究助成対象者

漢那憲治 一般教育助教授
神山美代子 保育科助教授
「復帰前の琉米文化会館の図書館活動についての資料集の編集、印刷」十五万円

山城真紀子 一般教育助教授
「沖縄における成人の余暇に関する調査研究」（共同研究）三十五万円

ホームステイは米国合同メソジスト教会のテキサス教区が受け入れ先の家庭を世話して下さいました。短い期間ではありましたが、ティ先の家族の一員に成り切って非常に良い交わりがございました。また、一週間の車旅行で都会だけではなく、田舎も行きました。四週間様々なところを訪ねましたが、「人」との出会いは一番印象深く素晴らしいものでした。

ホームステイは米国合同メソジスト教会のテキサス教区が受け入れ先の家庭を世話して下さいました。短い期間ではありましたが、ティ先の家族の一員に成り切って非常に良い交わりがございました。また、一週間の車旅行で都会だけではなく、田舎も行きました。四週間様々なところを訪ねましたが、「人」との出会いは一番印象深く素晴らしいものでした。

●西日本図書館学会 平成三年度秋季研究発表会 六月二十三日 於南三一五教室 西日本図書館学会（会長・岡村繁久留米大学教授）が本学で開催され九州各地及び県内から約八十名の参加がありました。同学会は年二回の研究発表会の成果を機関誌「図書館

学」に掲載している。沖縄県での開催は初めて。

●第12回沖縄保健台同研究集会（十一月二十三日～二十四日於チャペル他）生約百名が参加、子どもの保育者、父母、研究者、学生約百名が参加、子どもの「生活と遊び」をテーマにそれぞれの立場から共に考えた。

『紀要第20号発行』
課題としてのキリスト教和平学
国家主義教育と沖縄戦
カルヴァンにおける教会と国家；（I）
カルヴァンにおける教会と国家；（II）
『ハイデルベルク教理問答』（1563年）における教会と政治一改革派の伝統の事例研究
テクノロジーをこえて
<一般論文>
国絵コミュニケーション研究；（1）
——「琉球処分」国絵——

沖縄（琉球）図書館史 I
——図書館先史時代から近代まで——
環境による幼児の平和教育
悪漢小説としての侧面から見た
The Master of Ballantrae
キリスト教と土着宗教に関する調査に対するアンケート回答
保育科に於ける英語教育

<研究資料>
タイの中学生(1)——その家庭および学校生活——
目次 [第1号～第20号]
著者索引 [第1号～第20号]
題目索引 [第1号～第20号]

紀要第20号発行

公開講座

『沖縄キリスト教短期大学紀要』（第20号）を十二月に発行した。

執筆・内容は次の通り。

地域の生涯学習センターをめざし、一九九〇年四月に開講した一般向け公開講座の受講者数は延べ六一四名に達した。
公開講座委員会（漢那憲治委員長）では、一期二年間の活動の締めくくりとして三月七日特別講演会を開催した。講師は原喜美本短

大学長、演題は、「国際化時代における女性と高等教育」。会場には、これまでの公開講座受講生を中心にして、約七十三名が参加、熱心に講師の話に耳を傾けていた。

執筆者	内容
漢那憲治	<巻頭言> 私史・本短大『紀要』顛末記 <小特集・キリスト教和平学>
金城重明	課題としてのキリスト教和平学
金山實志	国家主義教育と沖縄戦
高崎繁毅	カルヴァンにおける教会と国家；（I） カルヴァンにおける教会と国家；（II） 『ハイデルベルク教理問答』（1563年）における教会と政治一改革派の伝統の事例研究
比嘉良夫	テクノロジーをこえて <一般論文> 国絵コミュニケーション研究；（1） ——「琉球処分」国絵——
大城宜武	沖縄（琉球）図書館史 I ——図書館先史時代から近代まで—— 環境による幼児の平和教育 悪漢小説としての侧面から見た The Master of Ballantrae キリスト教と土着宗教に関する調査に対するアンケート回答 保育科に於ける英語教育
山仲宮本漢	<研究資料> タイの中学生(1)——その家庭および学校生活——
神島袋	目次 [第1号～第20号] 著者索引 [第1号～第20号] 題目索引 [第1号～第20号]
アリソン,L.E.	
西平章子	
大城宜健	
棚中武次	
紀要編集委員会	
紀要編集委員会	
紀要編集委員会	

1991年度開設公開講座一覧

	講座名	講師	対象	受講者数
(4月～7月) 前期定期講座	やさしい英語教室	山里恵子 (英語科助教授)	一般社会人	22名
	カウンセリング中級コース	座間味宗治 (臨床心理士)	"	44名
	Survey of United States History I	ライル・アリソン (英語科教授)	中・高校英語教師及び同等の英語力のある方	23名
	キリスト教和平学	金城重明他 (一般教育教授)	社会人及びキリスト者	18名
(7月～9月) 中期定期講座	パソコン入門	大城宜武 (一般教育教授)	一般社会人	23名
	ワープロ講座（中級）	渡久地初美 (本短大非常勤講師)	"	14名
	家族カウンセリング	座間味宗治 (臨床心理士)	"	37名
	やさしい英語教室 PART II	前里光盛 (英語科教授)	一般社会人	30名
(10月～1月) 後期定期講座	Basic American Government	ライル・アリソン (英語科教授)	一般社会人及び中・高校英語教師	20名
	医療カウンセリング	座間味宗治 (臨床心理士)	一般社会人	58名
	新約聖書キリスト教入門	神山繁賀 (本短大非常勤講師)	社会人及び学生	25名

